

■ 災害時における羅臼漁港の活用（住民・物資輸送）

釧路開発建設部 根室港湾事務所

今年、北海道では、8月17日から23日の1週間で三つの台風(第7、11、9号)が上陸し、羅臼町内では、16日から8日間の雨量が489mmに達しました。なお、1年に三つの台風が北海道に上陸したのは、1951年の観測史上初めてのことで、道内各地では大雨による大きな被害を受けました。

羅臼町内では、約20カ所の土砂崩れや、住宅の床上・床下浸水、水産施設の被害など大きな被害を受けました。特に、道道における土砂崩れの発生によって、唯一の生活道路が通行止めとなり、孤立状態になるとともに、停電や電話の不通などライフラインが寸断されました。このような状況の中、道道の土砂崩れ対応として、羅臼漁港(第4種)と知円別漁港(第2種)の区間で住民や生活物資などの輸送を行い、孤立した地域の方々へ支援を行いました。



土砂崩れは、8月24日(水)16時50分頃に道道知床公園羅臼線の海岸町で山側法面から道路を横断し海岸まで土砂が流出しました(写真1)。また、被害の規模は、堆積した高さ約3mで長さ50～100mの土砂流出となり、1名の方が重傷を負い、226世帯760人が孤立状態になりました。

羅臼町の対応としては、24日の被害発生後、「土砂災害警戒本部」、「土砂災害対策本部」と対策本部を速やかに設置しました。

そして、翌25日には孤立した地域の対応として「知床観光船協議会」へ連絡船(観光船)の運航依頼を行い、当日中に運航を開始しました。

運航実績としては、波浪の状況を見ながら25日か

ら29日までの5日間で1日2便から8便、延べ26便行いました(写真2-1、写真2-2)。



写真1 土砂崩れの状況



写真2-1 連絡船の状況



写真2-2 連絡船の状況

なお、道道は、8月30日(火)正午に一部開通し、孤立状態を解消しています。

最後に、羅臼町役場におかれましては、投稿に際して資料や写真などのご提供をいただき、お礼申し上げます。